

2014年(平成26年)

8月24日(日)

旧暦7月29日・大安

発行所

日本新聞協会加盟

南海日日新聞社

〒894-8601

鹿児島県奄美市名瀬長浜町10番3号

電話 0997局

総合・総務局

53-2121 ファクス 52-2354

編集局

53-2127 ファクス 53-6636

Eメール nankain@po.synapse.ne.jp

営業局

53-2126 ファクス 53-6431

Eメール nankaj@bronze.ocn.ne.jp

販売部

53-2125 ファクス 53-1475

http://www.nankain.com/


©南海日日新聞社 2014年

奄美の森



町田酒造株式会社

きょう 南の風、晴れ



【概況】高気圧に覆われおおむね晴れる。海上は多少波がある。

きょう 南の風、晴れ

あす 南の風、晴れ時々曇り

●海上→きょう、あすともに1つの波

月齢28.2 大潮

週間天気と降水確率	25(月)	26(火)	27(水)
	☀️ 20%	☀️ 20%	☀️ 20%
最高/最低	32/26	32/26	32/26

サンゴ礁保全でシンポ

人との共生など意見交換

かごしま水族館で開催

【鹿児島総局】奄美群島など県内のサンゴ礁保全策を考えるシンポジウムが23日、鹿児島市のかごしま水族館であった。奄美群島サンゴ礁保全対策協議会が同館と共催。自然の恵みをもたらすサンゴ礁生態系と人の共生へ向けて「必要な範囲で重点的にオニヒトデを駆除していこう」「こみの投棄防止など陸域から環境保全意識を啓発することが必要」といった意見が出た。

万個も産卵し、幼生の浮遊期間が2〜6週間と長い▽幼生は栄養があるとして生存率が格段に高まる▽近年の海の富栄養化が大量発生を増長しているのではないかと問題提起。

その上で「オニヒトデは海流に乗って分散し生息域を広げる。むやみな駆除活動は発生を長引かせるだけ。人とサンゴ礁生態系が共存するためには狭い範囲で繰り返し駆除することが重要」と述べた。

県内のサンゴ礁保全へ向け、「生態系を踏まえ地道に効率的にオニヒトデ駆除活動を行えばよい」「海のダメージを陸域から抑えるために排水対策や環境学習も必要」「こみを捨てないなど住民の環境保全意識も求められる」との声が出た。



奄美群島サンゴ礁シンポジウム 2014
～未来へ残そう！鹿児島島のサンゴ～

同協議会がシンポジウムを群島外で開いたのは初めて。サンゴを食い荒らすオニヒトデの被害が本土でも発生しているため、世界自然遺産候補地・奄美の豊かな自然をアピールするとともに、情報を

人と自然の共生へ向けて効果的な保全策を考えたサンゴ礁シンポジウムは23日、鹿児島市

共有して県内のサンゴ礁保全につなげようという「未来へ残そう！鹿児島島のサンゴ」をテーマにした。

宮崎大学テニユアトラック推進機構の安田仁准教授が基調講演。各地のサンゴ礁保全やオニヒトデ対策について、鹿児島市水族館公社展示課の出羽尚子係長(県本土)、奄美海洋生物研究会の興

安田准教授はオニヒトデ大量発生の有効な対策として▽雌一匹で何千

自民党の石破茂幹事長が9月の内閣改造・党役員人事で、安倍晋三首相から打診された

安全保障法制担当相への就任について「安倍政策の持論が受け入れられなければ、務める

石破氏、安保相辞退の意向

週明けにも首相と会談